

プログラムの概要

- 日本では、毎年のように全国各地で台風や集中豪雨などによる洪水が発生している。土砂災害も合わせると、1994年から2003年の10年間に、97%以上の市町村で災害があったという統計もある。このような災害に対する正しい知識を学習し、十分に備えをすることの必要性を理解する。

関連する学習	・3・4年生—社会「災害及び事故の防止」 ・3・4年生—社会「身近な地域や市(区・町・村)の特色ある地形」 ・5年生—社会「森林資源の働き及び自然災害の防止」 ・5年生—理科「流水の働き」 ・共通——総合的な学習の時間
所要時間	45分×1
活動場所	教室(視聴覚教室)など

Keyword

キーワード

- 自然災害 ●風水害 ●洪水 ●防災
- ハザードマップ



【写真提供/国土交通省近畿地方整備局】

活動のねらい

- 風水害に関する正しい知識を身につけ、災害への備えの必要性を学び、その実践について考える

河川の氾濫による洪水災害や土砂災害、高潮災害、風害などの風水害(風や雨などがもたらす災害)は、一度発生すると人間の力では制御不能である。だからこそ、ふだんからの防災に対する備えが重要で、実際に多くの施策がとられている。

この講座では、まず過去の大きな風水害の実例やメカニズムを学び、その脅威を知る。続いて、そのために自分たちはどのような意識をもたなければならないか、どのようなことができるかを考える。さらに、風水害の予防に関する施設やルールなどを学ぶことで、自分たちでも災害への備えができるようにする。

「5-2 地域の川の洪水の歴史を学ぼう」や「5-5 ハザードマップをつくろう」と関連づけて実施すると、より効果的である。

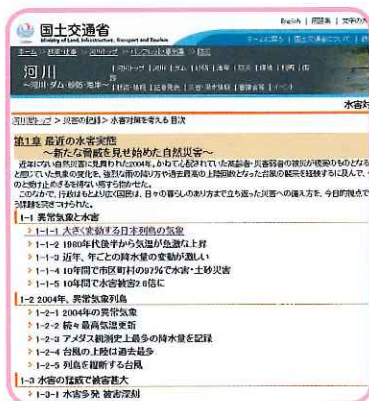
準備するもの

○活動に必要な道具

- ・風水害資料
- ・筆記用具
- ・ワークシート(準備できる場合)

○映像資料に必要な道具

- ・パソコン(OHPシート)
- ・プロジェクター(OHP)など
- ・スクリーン(大型ディスプレイ)
- ・説明用のデータ(パワーポイントのファイルなど)



風水害に関する基本的な知識や情報を提供している、国土交通省のウェブサイト

① 情報収集

- ・洪水などの風水害に関する知識をはじめ、体験活動のための基本的な準備や注意点について、書籍やインターネットなどを活用して学んでおく。
- ・防災施設について調べ、情報収集に役立てられないかどうかを検討する。
- ・行政担当者などに依頼して、風水害のメカニズムを話してもらうこともできる。市町村や都道府県の総務課や防災課などが窓口になっていることが多い。
- ・講師の話の内容によっては、地図や写真など、必要なものを準備する。

② 道具や器具の準備

- ・活動に必要な道具や材料を準備する。
- ・講師を依頼する場合には、事前にテーマや内容についての打ち合わせをする。

③ その他

- ・映像資料等の貸し出しを受ける際には、日時を要することもあるので、無理のない日時を設定する。

活動内容

導入



【写真提供／国土交通省四国地方整備局】

- ・「雨がずっと降り続けると、どうなるかな」「川があふれることってあるのかな」などと問いかけ、興味をひく。
- ・地域（あるいは近隣地域）でかつて風水害があった場合には、導入として、それを題材とした体験や、知っていることを話させてもよい。ただし、被災者もしくはその関係者（特に災害遺児など）が生徒のなかにいる場合には、十分な配慮が必要である。
- ・「洪水の被害が広がるのはどんなときかな」などと問いかけ、大きな風水害にはどのような原因や条件があるのかを考えさせる。

活動Ⅰ 水の災害について学ぶ



ゲストティーチャーのお話

- ・映像資料などによって大雨や洪水のおそろしさを理解させる。
- ・行政担当者などに依頼してゲストティーチャーとなってもらい、風水害に関係する「地形」「土地利用」「気象」などについて解説してもらうことも可能である。話の後に質問をして、わかりにくかったことなどを解決することで、さらに掘り下げた知識吸収をすることができる。あらかじめ質問事項を決めておいてもよい。
- ・ゲストティーチャーの話を聞く際に、地図などの補助資料があると理解しやすくなる。



質問の例

- どのくらいの周期で、風水害が発生していますか。
- これまでに最大の風水害はいつのことですか。そのときには、どのような被害がありましたか。
- そのとき被災した人たちは、どのような暮らしをしていましたか。
- この地域にも大きな風水害が起きる可能性はありますか。
- 災害の際に、地域に警報は出されますか。どのような警報ですか。
- 現在の地域を見て、危険だと思われるところはどんなところですか。
- 地域の防災施設について教えてください。
- 日ごろから防災について備えておくための、アドバイスをお願いします。

活動Ⅱ 災害への対策について考える



・ハザードマップをつくって、災害への意識を高めることも、「ふだんからの備え」として有効である。

- ・映像資料を見たり、ゲストティーチャーの話を聞いて、わかったことや感じたことについて感想を述べ合う。
- ・「大きな洪水に遭ったときに、何ができるか」など問いかけ、実際に自分が風水害に遭ったときのことをイメージさせる。洪水などの風水害をはじめ、自然災害は防ぐことができず、規模が大きくなるほど制御不能であることを理解させるように心がける。
- ・制御不能な災害において被害を最小限にくい止めるには、ふだんからの対策や備えが必要であることを理解させる。
- ・「ふだんからできることには何があるか」と問いかけ、自分たちができることをまず考えさせる。
- ・個人でできることに加え、行政などで採られている施策について紹介する。ゲストティーチャーに、具体的な説明を依頼してもよい。

まとめ

予測できないながらも、自然災害は決して他人事ではない。不慮の自然災害において被害を最小限にくい止めるためには、施設の充実や災害グッズの準備などのハード面はもちろんであるが、災害に対する知識を深め、意識を高めておくといったソフト面での「備え」も非常に重要である。この活動を通して、風水害について学び、「自分たちでできること」を考えたことは、災害への意識を高めるという「備え」の第一歩となることを説明する。自然災害を自分たちの身の回りの問題として考え、この知識をさらに深めることで、よりしっかりした「備え」に結びつけられることを理解させてまとめとする。

大雨や洪水などの映像資料や、地図を見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、得られた知識などをもとに、ハザードマップ（5-5 「ハザードマップをつくろう」参照）を作成することによって、さらに高い防災意識が形成できる。

風水害の知識をより実践的にするには、それを自分たちの周囲の問題として扱うことが有効である。そのためには、「5-2 地域の川の洪水の歴史を学ぼう」なども、併せて実施することが望ましい。

また、各家庭で自然災害の恐ろしさを話し合い、それに対する「備え」に関する意識を共有することによって、防災意識を周囲に広めていくこともできる。

参考情報

○自然災害に関する情報

- ・ 国土交通省防災教育支援ページ（出前講座のメニューや映像資料、パンフレット等の情報が掲載されている）
(<http://www.mlit.go.jp/bosai/education/index.htm>)
- ・ 各自治体の防災関連のホームページ
- ・ 災害列島～これまでの災害記録 (<http://www.mlit.go.jp/saigai/saigairettou.html>)
- ・ 災害の記録 水害レポート
(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/bousai/saigai/kiroku/index.html)
- ・ 災害をもたらした台風・大雨・地震・火山噴火等の自然現象のとりまとめ資料
(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saigai_link.html)

○ハザードマップの作成や既存のハザードマップに関する情報

- ・ 国土交通省ハザードマップポータルサイト
(<http://www1.gsi.go.jp/geowww/disaportal/index.html>)
- ・ まるごとまちごとハザードマップの推進（国土交通省ホームページ）
(http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/05/050703_.html)

○防災に関する情報

- ・ 防災学習マニュアル（国土交通省河川局）
- ・ 水防災教育素材集（国土交通省河川局）
- ・ OH! マイハザードマップ（国土交通省河川局）
- ・ 浸水想定区域図、浸水実績図



濁流（静岡県黄瀬川）



町の浸水（茨城県那珂川）